



信金中央金庫  
SHINKIN CENTRAL BANK

地域・中小企業研究所

ニュース&トピックス No.2021-62  
(2021.12.20)

〒103-0028 東京都中央区八重洲1-3-7 TEL.03-5202-7671 FAX.03-3278-7048  
URL <https://www.scbri.jp> e-mail : s1000790@facetoface.ne.jp

## 空知信用金庫の無人販売所「そらちしんきんマルシェ」について

北海道支店 藤澤 信幸

### ポイント

- 「そらちしんきんマルシェ」とは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた生産者の販路支援並びに地元特産品のPRを目的として、空知信用金庫が2020年10月より実施している無人販売所である。本店や営業店の店舗ロビーを農家や観光協会に無料開放し、地元農産物や特産物を販売している。
- SDGsに資する取組みとして、規格外・売れ残り・消費期限が近いなどの理由で、本来食べられるのに捨てられてしまう食品を出品するなど『食品ロス削減』にも取り組んでいる。
- この取組みは、地域住民から大きな反響を呼び、『日本経済新聞』ほか、地元紙『北海道新聞』や『プレス空知』など多数メディアで報道された。

### 1. 取組みの背景

空知信用金庫が本店を置く岩見沢市は、北海道の中西部に位置し、耕地面積19,800ヘクタールの広大で肥沃な土地と、石狩川水系の豊富な水を生かし、作付面積全道1位の稲作を中心として、畑作・野菜・果樹など幅広い農産物を生産しており、道内有数の食料供給地域として知られている。また、ICT技術を活用して農作業の効率化・省力化を図る『スマート農業』の実証実験を行うなど、全国的にも先進的な取り組みを行っている。

上述のとおり、農業が盛んな当地ではあるが、昨年来から続く新型コロナウイルス感染症拡大により外出自粛要請が続いたことで、飲食店やホテルへの農産物の出荷が大幅に減少し、行き場を失った農産物が大量に発生している。農産物の生産量は臨機応変に増減させることはできない。緊急事態宣言が繰り返されるなか、流通せず廃棄される食品が大量に発生する問題に直面した当金庫は、店舗ロビーの空きスペースを有効活用した無人販売所「そらちしんきんマルシェ」を考案し、実施することとした。

【写真】無人販売所の様子



### 2. 取組内容

まずは本店ロビーの空きスペースを開放し実施することとした。地元農家に声がけし、岩見沢産の新鮮野菜や果物などの農産物を販売した。

代金の支払いは、商品の隣に料金箱を設置し、来店客自身が現金を投入する方法をとった。無人販売所の特性上、料金箱の現金在高と商品売上高で誤差が生じる懸念があったため、商品の値段を100円単位に設定し、来店客が現金で払いやすいようにした。また、小銭が無い場合は、気兼ねなく窓口や両替機を利用してもらうよう、両替方法の案内を掲示するほか、職員がお客様に対して積極的に声がけするよう工夫している。

なお、実施期間中は、料金箱は開けないまま当金庫が保管し、最終日にそのまま出品者に渡すこととしたため、当金庫は売上管理を一切行っていない。本店ロビー内の無人販売所ということもあり、防犯面での問題は特段なかった。

この地元の農産物を販売する取組みは、来店客のみならず職員からも『当地の魅力を改めて知ることができた』と反響があったことから、本店での実施に留まらず、各営業店でも実施することとした。なお、本店では個別農家へ出品を依頼していたが、各営業店で実施の際は、観光協会へ取りまとめをお願いする形をとった。

【図1】『そらちしんきんマルシェ』のフロー図



集客にあたっては、当金庫および観光協会が共同で広告チラシを作成し、店頭やホームページでの掲示を行った。また、『日本経済新聞』や、地元地『北海道新聞』『プレス空知』などで取り上げられたことに加え、北海道空知地域創生協議会が運営する広報サイト『そらち・デ・ビュー』で特集されたことにより、地元住民に広くPRされることとなった。

【図2】 イベント告知チラシ



### 3. 本取組みの実績について

2021年12月現在、『そらちしんきんマルシェ』は、計10回ほど実施されており、各営業店では、来店客の注目を集める独自の工夫を凝らしている。例えば江別支店では、来店客が増える年金支給日に焼き立てパンを販売するといったイベントを実施。その結果、最大月商約20万円を記録している。

【開催実績と出品元一覧】

No.	実施期間	実施店	出品元
1	4週間	本店	岩見沢市の農家等
2	4週間	札幌西、琴似	岩見沢市観光協会
3	2か月間	札幌西、琴似	岩見沢市観光協会
4	2か月間	江別	岩見沢市観光協会
5	2週間	札幌北	美唄市観光物産協会
6	1か月間	厚別	岩見沢市観光協会
7	1か月間	美唄	江別市観光協会
8	1週間	白石	栗山商工会議所
9	4週間	札幌	岩見沢市観光協会
10	2週間	本店	岩見沢市の農家等

(出所) 当金庫からのヒアリングをもとに信金中金作成

足許では、SDGs(持続可能な開発目標)に関する取組みとして、食品ロス削減推進法が定める『食品ロス削減月間』に合わせて、食品ロス削減に関連した取組みを行っている。具体的に

は、規格外・売れ残り・消費期限が近いなどの理由で、本来食べられるのに捨てられてしまう食品を無人販売所に安く出品している。

当金庫は、2021年1月より『SDGs宣言』をしており、SDGsを達成するための様々な取組みを行っているが、本取組みは、17のSDGs目標のうち3つの目標に資するものである。

【図3】 本取組みが資するSDGs目標



また、今後の更なる展開として、キャッシュレス決済の導入を検討しているほか、他地域の信用金庫との連携も視野に入れている。

### 4. 今後の展望について

2021年12月現在、新型コロナウイルスの変異株が発生するなど、今も尚、感染症終息の目途は立っておらず、生産者は苦境に立たされ続けている。販路拡大支援の必要性はますます増しており、継続した取組みが求められている。

『そらちしんきんマルシェ』を知った卸売業者(バイヤー)から、取り扱っている商品の詳細について問い合わせを受けるなど、企業間の商談に繋がるような例が出てきている。このような当地の特産品に興味をもったバイヤーと生産者とを1社1社丁寧に取り繋ぐことが、地域金融機関の使命だと、当金庫は考えている。

空知信用金庫は、経営理念の『郷土の繁栄に寄与し、大衆からも職員からも喜ばれ、敬愛と信頼される信用金庫を創る』を念頭に、地域に根付く信用金庫として、これからもその役割を果たしていく。

以上

本レポートは、情報提供のみを目的とした上記時点における当研究所の意見です。施策実施等に関する最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当研究所が信頼できると考える情報源から得た各種データ等に基づいて、この資料は作成されておりますが、その情報の正確性および完全性について当研究所が保証するものではありません。